大阪教育大学
関西大学
近畿大学

オンラインによる授業を拡充

大阪教育大学
連合教職大学院

THE UNITED GRADUATE SCHOOL OF PROFESSIONAL TEACHER EDUCATION

オンライン授業を拡充
多様な学びのニーズに応えます

大阪教育大学 学長　**岡本　幾子**

大阪教育大学は、1874年（明治7年）5月に設置された教員伝習所をその起源とし、今年、創基150周年を迎えます。歴史と伝統を有する本学は、日本の教育の根幹を支えながら、その発展に貢献してまいりました。とりわけ学校教育分野において、日本の教育を先導する教員養成機関として素晴らしい人材を育成してきました。

2015年４月、次世代の教育を担うリーダーとして資質能力を向上させ、学び続ける教師を養成するため、これまで本学とともに大阪の教員養成に重要な役割を果たしてきた関西大学及び近畿大学と、国立・私立の垣根を越えて連合し、教職大学院を設置しました。2019年４月、社会が急激に変化する中、多様化し続ける学校教育の課題に即応できる実践力を身に付けた教師を養成することを目的として、大学院段階での教員養成機能を教育学研究科から連合教職実践研究科（連合教職大学院）に移行しました。

そして、2022年3月、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役として、文部科学大臣から「教員養成フラッグシップ大学」の指定を受けました。日本の教育課題が縮図化している大阪において、多様な主体との連携により、教育DXとダイバーシティ教育を重点的に促進するとともに、教員養成フラッグシップ大学構想の実現を通じて日本の未来の教育を創造していくことを目的として、連合教職大学院を機能強化しました。オンラインによる授業を拡充し、多様な育成段階の教員が共に学び合える環境を整備し、これからもより一層多様な学びのニーズに応えて参ります。

教職大学院での学びにより、より一層、学校教育のけん引者として活躍されることを期待しております。

Contents

02　TOPICS
03　教員養成フラッグシップ大学について
04　フラッグシップ大学特例領域科目
05　連合教職大学院の概要
07　連合教職大学院での学び
09　コースの概要
15　大阪教育大学連合教職大学院の魅力
17　在学院生・修了生からのメッセージ
19　教職大学院生の一日
23　授業科目一覧（予定）
25　就職支援／進路状況
26　学費・奨学金
27　入試情報
28　三つのポリシー
29　Access

教職大学院 TOPICS

オンラインによる授業を拡充

現職教員がより学びやすい環境を整えるため、オンラインによる授業を拡充。
※長期休業日や土日を利用しての対面授業も取り入れながら、双方向遠隔や
オンデマンドなどのオンライン受講での修了が可能です（学校実習科目等一部の科目を除く）。

オンラインメインで受講した場合（援助ニーズ教育実践コースの現職教員院生）の一例

前期第1ターム（4月～6月上旬）

※6限 18:00～19:30、7限 19:40～21:10

	月	火	水	木	金	土
8:00～17:00	勤務 ※自ら設定するテーマに基づく取組に従事している時間は「学校実習」の実習時間にカウント					部活指導・授業の課題に取り組む・集中講義の受講そして家事・育児などの家族との大切な時間、自分自身の趣味の時間など
17:00	勤務先からの移動や夕食、家事・育児など			プライベートタイム 勤務先からの移動や夕食、家事・育児などの家族との大切な時間、自分自身の趣味の時間、またはオンデマンド授業受講など	勤務先からの移動や夕食、家事・育児など	
18:00～19:30	研 必 学習指導の実践的展開 オンライン授業を受講（オンデマンド型）	コ 必 援助の理論と協働的援助 オンライン授業を受講（同時双方向型）	研 必 教育におけるDXとSTEAMの理論と実践 オンライン授業を受講（同時双方向型）		研 必 生徒指導と教育相談の実践的課題 オンライン授業を受講（同時双方向型）	
19:40～21:10	研 必 学習指導の実践的展開 オンライン授業を受講（同時双方向型）	コ 必 援助の理論と協働的援助 オンライン授業を受講（同時双方向型）	研 必 教育におけるDXとSTEAMの理論と実践 オンライン授業を受講（同時双方向型）		研 必 生徒指導と教育相談の実践的課題 オンライン授業を受講（同時双方向型）	

前期第2ターム（6月上旬～8月上旬）

※6限 18:00～19:30、7限 19:40～21:10

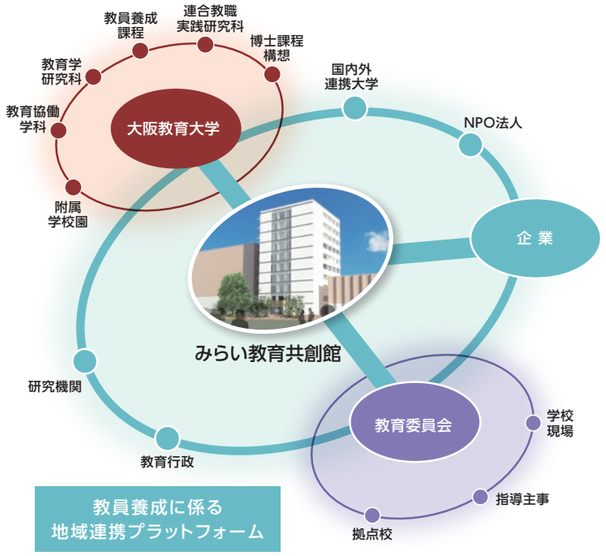
	月	火	水	木	金	土
8:00～17:00	勤務 ※自ら設定するテーマに基づく取組に従事している時間は「学校実習」の実習時間にカウント					部活指導・授業の課題に取り組む・集中講義の受講そして家事・育児などの家族との大切な時間、自分自身の趣味の時間など
17:00	勤務先からの移動や夕食、家事・育児など	プライベートタイム 勤務先からの移動や夕食、家事・育児などの家族との大切な時間、自分自身の趣味の時間、またはオンデマンド授業受講など	勤務先からの移動や夕食、家事・育児など	プライベートタイム 勤務先からの移動や夕食、家事・育児などの家族との大切な時間、自分自身の趣味の時間、またはオンデマンド授業受講など	勤務先からの移動や夕食、家事・育児など	
18:00～19:30	コ 必 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ オンライン授業を受講（オンデマンド型）		研 必 学校経営と学級経営の理論と実践 オンライン授業を受講（オンデマンド型）		研 選必 子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践 オンライン授業を受講（同時双方向型）	
19:40～21:10	コ 必 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ オンライン授業を受講（同時双方向型）		研 必 学校経営と学級経営の理論と実践 オンライン授業を受講（同時双方向型）		研 選必 子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践 オンライン授業を受講（同時双方向型）	

※天王寺キャンパスを修学キャンパスとした援助ニーズ教育実践コースの令和６年度前期をモデルケースとしています。令和７年度は変更になる可能性があります。
また、コースによって科目等は異なります。
※同時双方向やオンデマンドのいずれを実施するか、または両方（同時双方向の録画事後公開等）を実施するかは科目によります。
※授業形態がオンデマンドのものは当日の受講に限らず、自分自身の都合の良い時間帯での受講が可能です。
※週によって授業形態が異なる場合があります。
※オンライン授業（同時双方向型）で行う授業について、学校実習の学校園や勤務校園等での諸活動の都合による遅刻や欠席が生じる場合、事前に授業担当教員に申し出を行うことにより、該当する授業の録画を事後視聴することができます。録画した授業の視聴や代替課題の提出等の要件を満たした場合、当該回を出席相当とみなします。

教員養成フラッグシップ大学について

本学は令和4年3月9日に、文部科学大臣から教員養成フラッグシップ大学の指定を受けました。

教員養成フラッグシップ大学とは、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役としての役割を果たす大学のことであり、全国15大学の申請に基づき、本学を含む4大学が指定されました。



大阪教育大学のテーマ

ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、
学習者の学びに寄り添う教師の育成
－協働・省察を促し、教育DXの推進による
先導的・革新的教員養成カリキュラム－

本学は、日本の教育課題が縮図化している大阪において、多様な主体と協働しながら、教員の養成・研修や学校教育の高度化に取り組み、成果事例を日本全国に発信・浸透させることにより、大阪から日本の教育を変えていきます。

教員養成フラッグシップ大学に求められる3つの役割と本学の取組

本学は、指定大学に求められる以下の３つの役割に対して、特色のある取組を推進します。

1 先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

ダイバーシティ教育を基盤として、「子どもの多様性の理解のもと、学習者を中心とした授業実践力に優れ、個に応じた学習指導と一人一人の学びに寄り添う教師」を育成するための教員養成プログラムなどを開発します。

2 全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

教員養成に係る地域連携プラットフォームの拠点として「みらい教育共創館」を構築するとともに、教員養成・研修の高度化と効率化を図る「学び続ける教員を支えるプラットフォーム」を構築します。

3 取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献

多様な知的資源を集約することによって、新たな教員養成モデルや教育政策の提言、教職課程の質保証、現代的教育課題の解決に資する対応策の提示を行う「実践的シンクタンク機能」を確立します。

日本の教育課題に対応し、新たな未来教育を創造する
産官学連携による共創拠点

みらい教育共創館

教育委員会や企業、NPO法人などの
専門的知識や技術が一堂に会する共創拠点を構築し、
教育や教員養成の高度化に寄与します。

教育 学部生、大学院生（現職教員や企業人材を含む）など、学校現場を取り巻くさまざまなバックグラウンドを持った人材が学び合います。

研究 ５室のオープンラボを配置し、企業やNPO法人と連携して共同研究事業などを実施し、教員養成プログラムの研究・開発や教育課題の解決、教育の高度化をめざします。

施設の貸出

みらい教育共創館の未来型教室、プレゼンテーションコート、ミーティング室等について、事前予約により、教育研究関連のセミナーやイベント等でご利用いただけます。予約システムからご予約いただけます。

予約システムはコチラ▶▶▶

フラッグシップ大学特例領域科目

フラッグシップ大学の指定を受けて 共通5領域※に加えて設定する新たな領域・科目

教員養成フラッグシップ大学の指定を受けたことによる「教職大学院の共通５領域の必修単位数の弾力措置」を活用した独自の領域・科目を新たに設定しました。日本の未来の教育を創造していくためのカリキュラムにより幅広い学びのニーズに応えます。

教育DX・STEAM実践に関する領域

必修　教育におけるDXとSTEAMの理論と実践

授業の到達目標
- 自身が学習を進める際や問題解決のひとつの方法として、教育DX（ICTの基本的な活用も含む）の考え方を活かすことができる。
- STEAMに関し、自身が学び手となり問題解決過程を経験することで、STEAMを学ぶことの意義を自身の言葉で説明することができる。
- 学校教育においてSTEAMの視点を生かした授業について、提案と検証を行うことができる。
- 学習指導要領に示されている、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力や問題発見・解決能力の重要性を認識し、それらを意識した授業を提案することができる。

授業の概要
- ICT活用に関する政策や実践の動向を、国内外の事例を踏まえて講義する。
- ICT活用により、教育課題解決の具体策をグループワークにより考案する。

教育グローバル人材の育成に関する領域

必修　グローバルスタディーズの展開

授業の到達目標
在外教育施設（日本人学校）と連携した授業づくり実践を経験することで、以下の点をめざす。
- 異文化理解プログラムやグローバル教育を牽引する学校教員としての資質や技能を向上させる。
- 在外教育施設での教育の意義や役割を理解する。
- グローバルな考え方や多様な価値観に触れ、海外の教育課題やその解決策への関心を広げる。
- 遠隔教育を活用して、児童生徒が「令和の日本型学校教育」を学べる授業を構想し、実施・評価・改善できる。

授業の概要
- 教員研修留学生等や日本人学校教員との交流により、世界の多様な教育制度や教育課題、価値観等を理解させる。
- 道徳科の授業づくりを通じて、「令和の日本型学校教育」実現に向けた諸課題の解決方法を議論する。

多職種協働による組織マネジメントに関する領域

必修　多職種協働による組織マネジメント

科目の概要
- 「チームとしての学校」の考え方を理解した上で、学校現場での協働体制やマネジメント体制、外部との連携方策等の改善策を構想するためのPBL（問題解決型学習）による演習を行う。
- 心理・福祉・保健の専門職等の教育支援人材の育成を目的とする、大学院教育学研究科（修士課程）の授業との合同により、地域の各種の専門家との協働的な演習を行う。

※この科目概要は予定であり、変更になる可能性があります。

ダイバーシティの理解に関する領域

選択必修　社会的包摂に関する実践的探究

授業の到達目標
多様な子どもを包摂するための制度的仕組みや、学校園と連携し補完しあう関係諸機関における支援の実際・包摂を推進するための工夫について理解できる。これによって得られた学びを踏まえ、様々な課題を抱える子どもの将来的な自立のために、社会的包摂の視点から学校園や教員が取り組める教育や支援について考察できる。

授業の概要
多様な子どもを包摂するための制度的仕組み、学校園と連携し補完しあう関係諸機関における支援や包摂のための工夫について解説する。子どもが将来的に社会で自立するために教員にできることは何か考察するよう導く。

選択必修　子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践

授業の到達目標
この講義では、子どもの貧困と児童虐待について、学校現場でどのように課題として教師の前に立ち現れ、そのために教師はどのように心理職や福祉職と連携すべきかについて具体的な理解を得る。そして、貧困や虐待の子どもの援助について、どのように援助していければ良いのかを子どもの個人への援助、学級経営の中での援助に分けて事例分析から理解を得ることができる。

授業の概要
子どもの貧困と虐待が子どもの発達に及ぼす影響について講義する。また、具体的な事例や実践研究を踏まえ、児童虐待の防止と虐待を受けた子どもへの援助で大切なことは何かを受講生とともに考えていく。

選択必修　インクルーシブ教育の理論と実践

授業の到達目標
インクルーシブ教育に関わる国内及び国外の制度の変遷と現状とともに、特別な教育的ニーズとその子どもたちの基本的課題、指導方法について理解を深めることができる。

授業の概要
インクルーシブ教育に関わる国内外の制度の現状と特別な教育的ニーズのある子どもに関わる基本的課題、指導方法等について、特別支援教育学・特別支援心理学・特別支援臨床学の各専門分野から多角的に講義を行う。

選択　インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援

授業の到達目標
特別なニーズのある子どもも含めたインクルーシブな教室・学校環境を構築するために、インクルーシブ教育や障害概念の理論的内容について理解し、その上で学校現場における実践に必要なアセスメント、支援計画立案、支援の効果検証について計画することができる。

授業の概要
インクルーシブ教育の理念や障害の社会モデルを踏まえた上で、様々な援助ニーズのある子どもを支援していく際に必要となるアセスメント法や支援計画作成等について解説し、これらを受講者が獲得できるよう導く。

選択　通常学級におけるインクルーシブ教育の実践

授業の到達目標
通常学級において障害のある子どもとない子どもが共に学ぶ学級づくりや授業づくりの現状と課題、必要な合理的配慮がなされすべての子どもが学習に参加することを目指す具体的な方法を理解するとともに、学級づくりや授業づくりに求められる学校内の連携・協働（特別支援学級・保健室）や保護者との関わり・学校経営について、実践を捉え直す視点や教員の役割と専門性を中心に理解を深める。

授業の概要
通常学級において障害のある子どもとない子どもが共に学ぶ学級づくりや授業づくり、学級づくりや授業づくりに求められる学校内の連携・協働（特別支援学級・保健室）や保護者との関わり・学校経営について解説する。事例検討を通じて、受講者自身が多角的な視点をもつことで実践を捉え直し、教員の役割と専門性を態度に表現させる。

選択　外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ

授業の到達目標
外国にルーツのある子どもの多様性と教育課題を知り、特に子どもの学力や学習言語力の向上に向けた在籍学級での支援の意義と方法を理解する。具体的には、次の点を目標とする。
- 子どもの実態把握の観点を理解する。
- 教科指導型日本語指導（教科指導と日本語指導を統合した指導）の方法を理解する。
- 教科指導型日本語指導の観点から授業改善の方法を理解する。

授業の概要
外国にルーツのある子どもの教育について、在籍学級で学級担任や教科担任が行う指導や支援の方法を説明する。特に、学力形成を促す教科指導の方法を、指導案検討を通じて解説し、授業づくりの留意点を解説する。

選択必修　外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ

授業の到達目標
外国にルーツのある子どもを取り巻く教育環境の現状と課題を理解し、課題解決の当事者として、学校や教職員がとりうる学校経営や学級経営の改善方策を理解する。具体的には、次の点を目標とする。
- 外国にルーツのある子どもの教育環境をめぐる課題とその背景要因を理解する。
- 外国にルーツのある子どもの教育における指導関係者の役割と専門性を理解する。
- 言語的・文化的多様性への理解を深める。
- 実践を捉え直す視点や目指す教育の拠り所となる知識を獲得する。

授業の概要
外国にルーツのある子どもの教育をめぐる課題の背景要因や構造を説明する。課題解決のために、多様な指導関係者との協働の中で求められる教員の役割と資質能力について解説し、モノの見方や判断基準の相対化を図る。

選択　外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ

授業の到達目標
外国にルーツのある子どもを取り巻く教育環境の充実や改善に向けて、学校内外で他の教職員等と協働して課題解決できる判断力と行動力を培う。具体的には、次の点を目標とする。
- 教育環境の実態把握に基づき、学校内外の課題を発見する力を培う。
- 課題解決に向けた行動計画を立案・実行・点検し、課題を解決する行動力を培う。
- 課題解決に向けて、他の教職員等と協働する方法と工夫、その多様性を理解する。
- 言語的・文化的多様性に寛容な教育環境の実現に向けた、自己の役割を省察できる。

授業の概要
「外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ・Ⅱ」（M1科目）の授業を通じて得た知識等をもとに学校改善や授業改善ができるように、ケースメソッドを通じて、受講者それぞれの立場に応じた課題解決力の獲得を図る。

※教職大学院において共通に開設すべき「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」からなる5領域（計10単位）を設定しており、院生はすべての領域にわたり履修する必要があります。

教職大学院の目的

教職生活全体における高度かつ実践的な教員養成のための専門職大学院

近年、教員の養成・採用・研修等を通じて、教員が教職生活全体の職能成長を実現する環境づくりが進められており、教職大学院は高度専門職業人養成に特化した大学院として、全国に設置されています。

学部段階の資質能力を基盤に深い教職専門性と実践的指導力を兼ね備える新人教員を養成

教員養成系大学あるいは一般大学の学部新卒者に、それぞれの特色を生かした資質能力にさらなる教職専門性と学校現場に即応できる実践的指導力を培い、学校の有力な一員となる新人教員を養成します。

学校の組織的課題・子どもの教育課題に応じた教育実践力や指導的役割を発揮する現職教員を養成

多様で複雑化する学校の組織的課題や子どもの教育課題を適切にとらえ、それらの課題解決をめざす確かな教育実践の展開に指導的役割を果たすことができる、学校の中核となる教員を養成します。

現代的な教育課題

- 新たな教育課程・授業方法の創出
- 学習指導要領の改訂に応じた教育活動の展開
- ICT を用いた指導法の充実
- 「チーム学校」の実現
- 子どもの育ちに関わる課題の解決（いじめ・不登校・児童虐待等）
- 個々の子どもに応じた指導・支援の充実　など

求められる教員の資質能力

- 自律的に学ぶ姿勢や意欲
- 価値を見つけ出す感性や探究心
- 知識や経験を有機的に結びつけて構造化する力
- 現代的な教育課題に対応する力
- 学校内外の組織や専門家とチームで連携・協働する力
- 各自治体の教員育成指標で求められる資質能力

など

養成する人材像

- 自ら学び続ける教員
- 教職・教科等の高度な専門的知識や技能を有する教員
- 学級経営・生徒指導・教育相談等を適切に実践できる教員
- チームで課題解決をめざす教員
- 地域の組織や専門家と連携・協働する教員
- 学校経営及び教育行政のリーダー

修了要件

専門職学位課程に2年以上在学し、所定の科目を46単位以上修得することを要件としています。

科目名	単位数	内　容
研究科共通科目（共通5領域・フラッグシップ大学特例領域）	20	共通5領域科目では「カリキュラムの編成原理とマネジメント」、「学習指導の実践的展開」、「生徒指導と教育相談の実践的課題」、「学校経営と学級経営の理論と実践」、「学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造」を必修科目とし、フラッグシップ大学特例領域科目では「教育におけるDXとSTEAMの理論と実践」や「グローバルスタディーズの展開」、「多職種協働による組織マネジメント」を必修科目とし、選択必修科目として「社会的包摂に関する実践的探究」、「子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践」、「外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ」、「インクルーシブ教育の理論と実践」を設定しております。10科目20単位を修得します。
学校実習科目	10	「基本学校実習Ⅰ・Ⅱ」と「発展課題実習Ⅰ・Ⅱ」(特別支援教育コースについては、「基本学校実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」と「発展課題実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」)の計４科目10単位を修得します。
コース必修科目	6	各コースが目標とする資質能力を育成するための科目を設定しています。詳細については、授業科目一覧（スクールリーダーシップコース・援助ニーズ教育実践コース：23ページ、教育実践力コース・特別支援教育コース：24ページ）をご参照ください。
課題研究科目	4	入学時から明確な意図と達成目標を持った研究テーマを設定して、課題解決に向けた実践的探究を進めます。「実践課題研究Ⅰ」と「実践課題研究Ⅱ」の計2科目4単位を修得します。
自由選択科目	6	研究科共通科目の選択科目やコース科目の選択科目の中から6単位を修得します。一部の科目を除いて、他コースの開講科目からも選択できます。

学位

「教職修士（専門職）」の学位が授与されます。

取得できる免許状

取得しようとする免許状の一種免許状を修了年度に有していることが必要です。

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状
  （国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教）
- 高等学校教諭専修免許状
  （国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教）
- 養護教諭専修免許状
- 特別支援学校教諭専修免許状（※特別支援教育コース所属学生に限る）
  （視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

機能強化

「学びたい」というニーズに応え、学部卒院生がスムーズに学べ、
現職教員院生が通いやすい教職大学院に機能強化しました。

よりスムーズに　学部卒院生に向けて

□ 学部と教職大学院が接続する教員養成プログラムを展開します。
□ 学部との接続を図るため、柏原キャンパス（昼間）においても援助ニーズ教育実践コースを展開します。
□オンラインの活用により、両キャンパスの科目が履修できます。
□天王寺キャンパス（夜間、土曜）においても修了に必要な科目が履修できます。

より通いやすく　現職教員院生に向けて

□ 現職教員の教科教育や特別支援教育の学びのニーズに応え、多様な育成段階の教員が共に学び合う教育を行うため、教育実践力コース及び特別支援教育コースを天王寺キャンパス（夜間）においても展開します。
□ オンラインによる授業を拡充し、現職教員が学びやすい環境を整えます。
※長期休業日や土日を利用しての対面授業も取り入れながら、同時双方向やオンデマンドなどのオンライン受講での修了が可能です（学校実習科目等一部の科目を除く）。

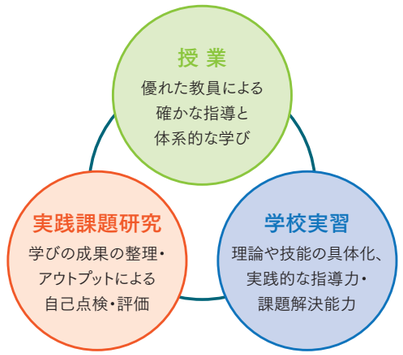
大学院キャンパスと学校現場をフィールドとした学び

理論と実践の往還・融合

自らが設定した課題の解決に向け、授業における理論的な学びと、2年間を通じて実施する学校実習における実践的な学びとの往還を繰り返し、実践課題研究に取り組むことで、教職に求められる実践的指導力を高めていくよう、カリキュラムを構築しています。

指導体制

院生には、主指導教員・副指導教員が割り当てられ、研究者教員と実務家教員、教職専門系教員と教科専門系教員といった、複数の視点で指導できる体制を用意しています。



［ 理論と実践の往還・融合 ］

授業

教職に求められる実践的指導力を向上させるカリキュラム

大阪府・大阪市・堺市の各教育委員会が掲げる教員育成指標と対応させたディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を、各コースで設定しています。つまり、学校現場で求められる理論や実践動向を科目の中で体系的に学び、学校実習等でそれを実践しながら、実践的指導力を高めていける環境があります。また、全ての院生が共通に履修する研究科共通必修科目は、研究者教員と実務家教員のタッグによるティームティーチングにより授業を展開し、理論と実践の往還の一助となります。

すぐれた教員による確かな指導

150名を超える大学教員が全学的な協力体制のもと、大学院生の指導・支援を行います。研究者教員は、それぞれの専門分野の学術研究に関して数多くの業績を有し、中には、学校現場や教育行政との共同プロジェクト等の豊富な経験を有している教員もいます。また、学校や教育行政に長く勤務し、教育課題の解決に尽力してきた実務家教員は、大学院生にとってのよき教職モデルです。これらのすぐれた教員による確かな指導によって、実践力や探究力等を高めていきます。

教員紹介についての詳細はこちらから

学校実習

学校実習の主な目的は、学部の教育実習とは異なり、教員免許状を所持する院生が高度な実践力を備え、教職力量を形成・向上させることです。実際の学校教育活動（保育活動）に参画しながら、自ら設定するテーマについて理論と実践の往還・融合を図り、学校園等の諸課題の解決や改善の提案及び幼児・児童・生徒の資質・能力の育成など学校教育に貢献することをめざします。

大学院入学時に学部新卒で教員経験の少ない院生も、教員としての基礎的理解をふまえ、自らの実践を省察し、高度化させ、職能の成長をめざします。

時期		科目名	時間数	単位数	実習先
1年次	前期	基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅲ（特別支援）	60時間以上	2単位	**勤務校等での実習**：勤務しながら教職大学院で学修する現職教員院生は、原則として自身の勤務校等において学校実習を行います。 **配当校での実習**：休業制度等を利用し勤務校等を離れ教職大学院で学修する現職教員院生や学部卒等の院生は、原則として配当校で学校実習を行います。 ※現職教員院生（勤務経験3年以上）においては、定められた手続きにより履修免除を願い出、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習Ⅰ」の履修を免除されます。 ※配当校は、学校実習を受け入れていただける大阪府内の連携協力校から、複数の要件・情報等をもとにマッチングします。
	後期	基本学校実習Ⅱ 基本学校実習Ⅳ（特別支援）	60時間以上	2単位	
2年次	前期	発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅲ（特別支援）	90時間以上	3単位	
	後期	発展課題実習Ⅱ 発展課題実習Ⅳ（特別支援）	90時間以上	3単位	

実践課題研究

課題研究科目として、「実践課題研究Ⅰ・Ⅱ」（必修4単位）を修得し、実践課題研究報告書としてまとめ、研究発表を行います。実践課題研究は、1年次からの「学校実習」と関連させ、1年次での学びの成果を整理しながら、実践的な研究課題に対する問題意識とそれに対する取組についてまとめます。実践研究の過程においては、課題解決のプロセスをR-PDCAサイクルに基づいて自己点検・評価することが重要です。また、学校園や教育委員会のスタッフ等とのコミュニケーションの中で取り組むことも必要です。このようなプロセスを通して、自らの研究課題の解決能力の向上、学校や地域が抱える教育課題の解決への貢献をめざしています。

実践課題研究のテーマ例	
現職教員院生	「観点別学習状況の評価」の全面実施にむけた実践 高等学校における環境整備
	小中一貫校におけるキャリア教育推進の実践研究 －キャリア教育の視点を入れた授業の開発支援を通して－
	知的障がい支援学校における農業学習と キャリア形成の力の把握に関する実践的研究
学部卒院生	通常学級における読み書きで困難を示す児童への正確性及び流暢性に焦点を当てた指導・支援
	小・中学校の単元間の系統性を意識した 中学校入門期における指導への提言
	力学と熱に対して主体的に学習に取り組む態度の育成と評価

リフレクション・ミーティング

リフレクション・ミーティング（ＲＭ）とは、学校実習での取組を振り返る機会や、他者が理解可能なように成果や課題をまとめ発信する場を意味します。ＲＭには下のような種類があります。

名称	実施時期	実習内容
個別RM	随時	・大学院指導教員が実習校園等を訪問し、院生の学修状況を確認しながら指導・助言する。必要に応じて実習校園等の指導者や教職員とも振り返りの機会を設定する。 ・主指導教員が、大学院で個別・ゼミ形式で指導・助言する。
コースRM	8月及び2月	・学校実習での取組について発表し、院生間で相互に交流するとともに、副指導教員や大学院の関係教員から助言を受ける。 ・必要時は、学校園等や教育委員会関係者、修了生等の参加者と交流する。
全体報告会	2～3月	・各コースの代表院生が、学校実習の取組に関して発表する。

授業：学習指導の実践的展開

コースRMの様子

全体報告会の様子

主な修学時間帯及びキャンパスについて

令和６年度入学生より、スクールリーダーシップコース以外のコース（昼夜間展開するコース）に所属する院生は、自身で＜昼間＞＜夜間＞の主な修学時間帯を選択します。 ※スクールリーダーシップコースの院生は、原則、夜間のみ（集中講義や学校実習科目等を除く）の修学となります。

昼夜間展開するコースの院生は、平日及び土曜日の1限から7限までに開講されている授業科目、長期休業中に開講される集中講義等から履修する科目を選択することができます。

昼間展開授業	夜間展開授業	集中講義
1～5限 （8時50分～17時55分） 対面授業は主に 柏原キャンパスで開講	6・7限 （18時00分～21時10分） 対面授業は主に 天王寺キャンパスで開講	長期休業中や不定時に 開講される授業 開講時期・開講場所は、 時間割・シラバスに記載

また、全コースとも、多くの授業が（対面開講とのハイブリッド展開も含む）同時双方向・オンデマンド等のオンライン授業に対応しており、昼間に実習校園等で実施する学校実習科目以外の授業を、オンラインのみで単位修得することが可能です。

●昼間展開授業

1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限
8:50 ～ 10:20	10:35 ～ 12:05	12:55 ～ 14:25	14:40 ～ 16:10	16:25 ～ 17:55

スクールリーダーシップコース

夜　間

対　　象	現職教員等（勤務経験3年以上）（※）
募集人員（目安）	30 名
養成する人材像	● 保護者、地域住民等と協働し、学校及び地域の新しい教育課題の解決に向けてリーダーシップを発揮できる教員 ● 教員集団をリードし、学校経営における中心的役割を担うことのできる教員

援助ニーズ教育実践コース

昼　間　夜　間

対　　象	現職教員・学部卒学生等
募集人員（目安）	30 名
養成する人材像	● 多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を身に付けた教員 ●「チーム学校」の考えに基づき、学校園内・外の関係者と協働して教育実践を展開できる教員

教育実践力コース

昼　間　夜　間

対　　象	現職教員・学部卒学生等
募集人員（目安）	80 名
養成する人材像	● 児童・生徒に即した、実践的で高度な学習指導、学習評価を行える能力を身に付けた教員 ● 教員としてのカリキュラム・マネジメントや、教科横断的な視野を持った教科領域の指導、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員

特別支援教育コース

昼　間　夜　間

対　　象	現職教員・学部卒学生等
募集人員（目安）	10 名
養成する人材像	● 特別な支援を必要とする子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身に付けた教員 ● 特別支援教育コーディネーターとしての役割を担うことができる教員

※「現職教員等」とは学校教育法第１条に規定する幼稚園（幼保連携型・幼稚園型認定こども園を含む）・小学校・中学校・高等学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校で常勤（任用の期限がある常勤講師は含まない）で勤務している方、又は都道府県もしくは市区町村の教育委員会及び国公立の教育センター等において指導主事として勤務している方。ただし、令和７年３月31日以前に退職する予定の方を除きます。
経験年数は、１か月未満の場合は１か月として計算し、入学願書裏面の職歴欄より確認します。休職期間（育児休業、国際派遣等も含む）は、経験年数に算入しません。

●夜間展開授業

6 時 限	7 時 限
18:00 ～ 19:30	19:40 ～ 21:10

夜　間

協働力とリーダーシップを育てる

スクールリーダーシップコース

概　要

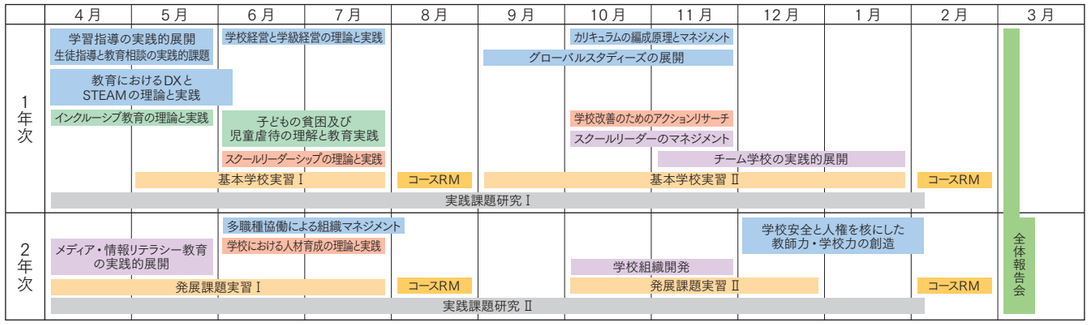
スクールリーダーシップコースは、名実ともに「学び続ける教員」をめざすコースです。

事例研究やそれぞれの課題に応じた専門的かつ多元的な学びから、学校経営の中心的役割を担うために必要な実践力を身に付けることができます。

現職教員等の学校実習では、勤務先において同僚を巻き込みながら改革へつなげていく実践を通して、「学び続ける教員」としての力量を向上させていきます。

履修モデル

（参考）令和6年度入学者のカリキュラム



このカリキュラムはあくまで一例となります。
全体報告会はコースカリキュラム外の内容となります。

コース代表のコメント

スクールリーダーシップコースは、学校経営の中心となって新しい教育課題の解決に向かう教員を育成するコースです。

新しい教育課題は、これまでの経験だけで解決することはできません。確かな理論に基づいた新しい学びが必要です。理論と実践を往還させる講義とともに、参加型授業における院生同士の交流を通して、新しい学びを創り上げていきます。

新しい教育課題は、自分一人で解決することはできません。専門性に基づいた協働体制の構築が必要です。学校実習において勤務先等の同僚と協働して、学校改革につながる実践を積み重ねていきます。

同級生という対等な立場の仲間として、校種も職階も年齢も異なる教員と机を並べて学ぶことは、かけがえのない経験です。視野が広がるのはもちろんのこと、仲間の姿を通して、過去の自分を振り返ることができます。未来の自分を思い描くことができます。この仲間は、大学院修了後も、ともに学び続けることができるかけがえのない存在です。

ぜひ、スクールリーダーシップコースの仲間に加わってください。素敵な仲間とともに、明日の教育、明日の学校、明日の自分を創っていきましょう。

佐々木　靖　教授

昼　間　夜　間

多様な子どもたちのニーズへ協働的にアプローチする

援助ニーズ教育実践コース

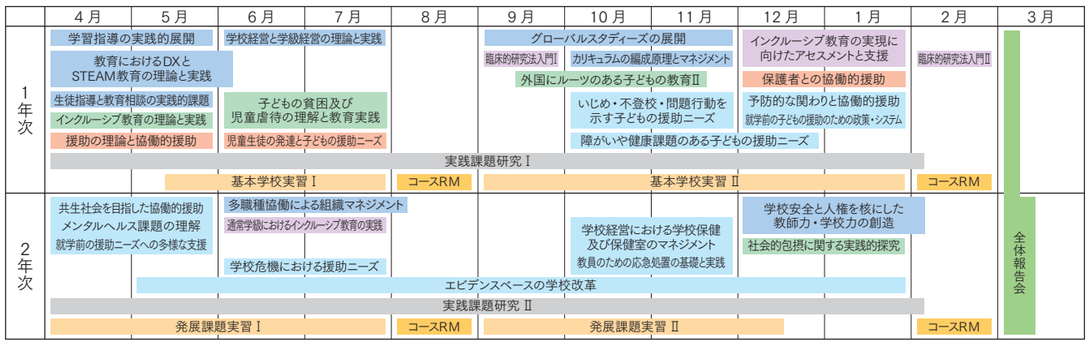
概　要

援助ニーズ教育実践コースは子ども一人ひとりの援助ニーズをくみ取り、それに応えるための教育実践について学んでいくコースです。

現代的な教育課題である子どものいじめや不登校、問題行動に加え、発達障がい、健康課題等、幼児・児童・生徒一人ひとりの中に複合的に存在する援助ニーズへの対応力を身に付け、子どもに笑顔と前向きな気持ちが生まれるよう、「チーム学校」の考え方に基づいた協働的な援助ができる教員になるために必要なことを学べます。

履修モデル

（参考）令和6年度入学者のカリキュラム



このカリキュラムはあくまで一例となります。
全体報告会はコースカリキュラム外の内容となります。

コース代表のコメント

援助ニーズ教育実践コースは子ども一人ひとりの援助ニーズをくみ取り、それに応えるための教育実践について学んでいくコースです。

昨今、子どもを取り巻く環境、子どもの抱える課題は多様化しています。子どもの自立と成長を支援するために、教員は自らの専門性を高めると共に、学校園内外の多様な専門性を持つ方々と連携・協働することが求められています。

本コースでは、幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭や養護教諭の免許を有する皆さんが、様々な立場や視点を持ちながら教育課題の解決に向けて学んでいます。授業では「援助ニーズに応える教育実践」について多彩なアプローチから学びを深め、様々な校種や立場の現職教員と学部卒の皆さんがお互いの立場や視点の違いからの気づきを実践における連携・協働に活かそうと取り組んでいます。

修了生は教職大学院で学ばれたことをもとに、学校園等の課題の解決に向けて、活躍されています。皆さんも様々な学問領域の知見を融合させ、実践を振り返り、「現在と未来を生きる子どもたちの援助ニーズに応える教育実践とは何か」という重要なテーマをともに考えてみませんか。

瀧野　揚三　教授

昼　間　夜　間

教科横断的な視野を持った高度な教科指導力を育成

教育実践力コース

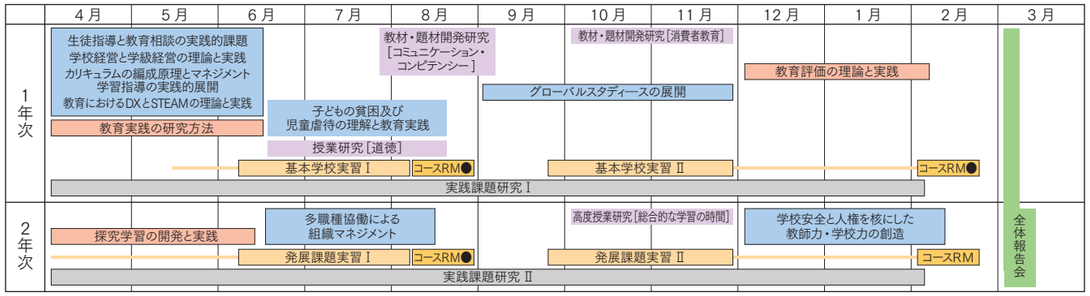
概　要

教育実践力コースは、教育現場の実情に応じた教材研究、指導法の開発、授業改善、今日的な教育課題に対応した方策を自身のテーマとして持ち、理論と実践を踏まえて検討することに重点をおいて学ぶコースです。

それぞれの理想の教員像をめざしながら、教育現場から求められ、教育課題の解決を図ることができる教員になるために必要なことを学べます。コース必修科目では教育実践の研究方法、教育評価、探究学習について、コース選択科目としては教科教育系科目（授業研究、高度授業研究）と教科専門系科目（教材・題材開発研究、高度教科内容研究）から自身の専門や学びたい内容を選択することができます。

履修モデル

（参考）令和6年度入学者のカリキュラム



外枠のない科目は選択科目なので、あくまで一例となります。教育実践力コースでは多くの科目を提供しております。
●マークのコース RM は実習科目内の内容、全体報告会はカリキュラム外の内容となります。

コース代表のコメント

教育実践力コースでは、学校教育現場の実情に応じた教材研究、指導法の開発、授業改善、今日的な教育課題に対応した方策を自身のテーマとして掲げ、理論と実践を往還した学びを行うことができます。

現在、学校現場が抱える課題は多様化・複雑化しています。様々な課題に対応するために、幅広い知識を持ち、柔軟に対応できる実践的指導力をもった教員になることをめざします。

学びの中核にあるのは、問題解決のプロセスを踏まえた探求活動と省察です。教職大学院では、講義において教科横断的な研究手法や専門的知見を深め、学校実習では自らのテーマを探求し、様々な専門的知見をもった教員や院生との交流を通して自身の視野を広げることができます。

学校実習では、理論どおりにはいかないことや目の前の児童・生徒に合わせてこれまでの知見を転換させることがあるでしょう。その際に、教育実践力コースの魅力の1つである校種や各専門領域を大切にしながらも、同時に教科横断的な視点や校種を超えた学びを通して得られる多角的な視点で自らの教師力を磨いてください。

教職大学院で、様々な学問領域の知識【理論】と教育現場での実習【実践】の経験を自身の中で統合させ、自らを省察できる「学び続ける教師」になることを期待しています。学校教育の未来を一緒に考えていきませんか。

田中　真秀　准教授

昼　間　夜　間

障がいのある子ども一人ひとりに対応した支援を

特別支援教育コース

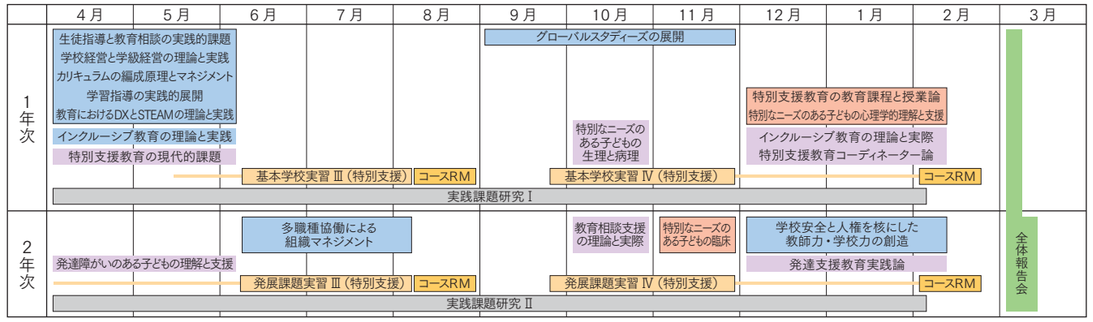
概　要

特別支援教育コースは、学校での実習を通して、実際の教育現場というフィールドを大切に、障がいのある子ども一人ひとりの実態やニーズの把握に必要な洞察力と、それらに基づいて授業を展開できる実践力を磨いていくことを目標に学ぶコースです。

インクルーシブ教育システムの観点から、特別支援学校、幼稚園、小・中・高等学校での特別なニーズのある子どもを理解し支援することができる教員になるために必要なことを学べます。

履修モデル

（参考）令和6年度入学者のカリキュラム



このカリキュラムはあくまで一例となります。
外枠のない科目は選択科目なので、あくまで一例となります。特別支援教育コースでは多くの科目を提供しております。
コース RM は実習科目内の内容、全体報告会はカリキュラム外の内容となります。

コース代表のコメント

特別支援教育コースでは、学校での実習を通して、実際の教育現場というフィールドを大切に、障がいのある子ども一人ひとりの実態やニーズの把握に必要な洞察力と、それらに基づいて授業を展開できる実践力を磨いていくことを目標にしています。

また、本コースには、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、発達障がいといった各領域における高い専門性をもつ教員が在籍しています。多様な講義や教員との対話を通して、現在の特別支援教育の課題や各障がいについての理解を深め、また、教材の開発や授業改善についても学びを深めることができます。

近年、インクルーシブ教育推進の重要性が一層増しています。特別支援教育コーディネーターの役割重視、授業のユニバーサルデザイン化が求められていることなどからもわかるように、特別支援教育に携わる教員は、特別支援学校あるいは特別支援学級における教育実践を深めると同時に、通常の学校、通常の学級における教育への視点を養う必要性もあります。特別支援学校をはじめとして、特別支援学級や通常の学級など、様々な教育の場において、障がいのある子ども一人ひとりが輝く教育をめざして、一緒に学びを深めてみませんか。

正井　隆晶　准教授

大阪教育大学連合 教職大学院の魅力

院生共通

オンライン授業科目の拡充

院生が学びやすい環境を整えるため、学校実習科目等の一部科目を除くほとんどの授業科目について、オンライン対応をしています。

令和6年度より3コースを2つのキャンパスで展開

援助ニーズ教育実践コース、教育実践力コース、特別支援教育コースを柏原、天王寺の両キャンパスに設置します。学部卒院生はよりスムーズに学部と接続ができ、現職教員院生は多様な育成段階の教員と共に学びやすくなります。

仲間と出会える

連合教職大学院には、指導主事や現職教員もいれば、学部卒院生もいます。学校間、校種間、教科間、更には世代を超えた院生同士の多種多様なつながりが生まれます。そのつながりは、校種間連携や教科横断的な視野を広げるだけにとどまらず、在学時はもちろん、修了後においても、お互いを支え合い、学び続ける仲間となります。

課題解決能力が身につく

理論と実践の往還・融合を通して、調査・協働・俯瞰的な視点・分析等、課題を解決する力が身につきます。

専修免許状を取得できる

連合教職大学院では、幼・小・中・高・養護・特別支援（視・聴・知・肢・病）の専修免許状を取得することができます。取得のためには、①取得しようとする専修免許状にかかる一種免許状を有していること、②取得しようとする免許状の課程認定を受けた授業科目を２４単位以上修得すること、の2つの条件を満たす必要があります。なお、専修免許状を取得すれば、自治体によっては給与に反映することもあります。

教職修士（専門職）の学位を取得できる

連合教職大学院に2年以上在籍（長期履修制度を利用した場合は3年）し、所定の科目を46単位以上修得のうえ修了することで、教職修士（専門職）の学位を取得することができます。

2年間で300時間以上の学校実習

学校現場での体系的かつ長期の実践経験を、子どもたちと関わりながら積み上げることができます。学部卒院生は、学部段階での教育実習とは異なり、授業の実施だけでなく、学級経営、生徒指導、教育課程編成をはじめ、学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察することができます。現職教員院生は、授業で学んだ理論を勤務校における組織的かつ長期的な実習を通して検証することが可能です。

学校心理士の資格認定審査に申請が可能

令和2年度より、学校心理士の申請類型に、教職大学院類型が加わり、教職大学院修了者及び修了見込み者の方も学校心理士の資格認定審査に申請することが可能となりました。詳細は、学校心理士認定運営機構のウェブページをご確認ください。

現職教員院生

自らの経験に確かな理論を

これまでの教職経験で培った実践的知見と教職大学院での先進的な教育研究に基づく理論的な知見とを統合させることで、理論に裏付けられた教育実践力を身につけることができます。これにより、自らの実践の優れた点については確かな根拠を持ってより一層伸ばしていくことが可能となり、また課題点についても理論に基づいて具体的に改善していくことが可能となります。

学んだことをすぐ活かせる

協働的な学び、ICTを活用した授業、生徒指導など、教職大学院での学びをすぐ自身の授業や指導に活かすことができます。先進的な研究や理論に基づく教育実践を学校現場で展開していくことによって、幼児・児童・生徒のより一層の成長に繋げることができます。

勤務しながら学べる

とりわけ天王寺キャンパスは交通アクセスがよいため、大阪府外から通っている大学院生が多数います。なお、2年で修了するのが困難な方を対象とした長期履修学生制度を活用し、3年かけて学ぶことが可能です。

勤務校等が抱える課題解決に挑む

勤務校等の教育課題等を踏まえた実践課題研究テーマを設定し、教職大学院での2年間の学びの中で、同僚との協働や、大学教員が勤務校等を訪問しての助言・指導等、学校・院生・大学教員のチームで、勤務校等が抱える教育課題の解決に挑みます。

実務経験により学校実習科目が一部免除

勤務経験 3年以上の現職教員院生は、定められた手続きにより履修免除を願い出て、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習I」の履修が免除されます。

学部卒院生

教職に関してより深く勉強できる

連合教職大学院では、その名の通り、教職に関する科目を多数用意しています。学部卒（特に教育学部でない学部）の方は、深い教職専門性を培うことができます。

教員採用試験が一部免除に

自治体によっては、教職大学院生に対して教員採用試験における試験の一部免除や、教職大学院枠としての学内推薦の制度を利用することができます。

教員採用試験の支援

試験対策の一環として、筆記試験だけでなく、集団討論・面接、模擬授業・場面指導等の対策講座を実施しています。

名簿登載期間の延長措置が可能

自治体によっては、入学前及び在学中に教員採用試験に合格した場合、申請手続きを行うことで、名簿登載期間の延長措置が可能です。

※名簿登載期間の延長がない自治体でも、採用試験の一部免除が可能な場合があります。

1年を通じて学校現場と関われる

学校実習の一環として、児童生徒等や教職員と交流し、実習先の様々な教育活動及びその補助に携わることで、子どもの変化や成長の様子を長期的に捉えることや、組織の同僚との協調性を身に付けること等をねらいとしています。学部での教育実習では体験できない学びと言えます。

仲間と切磋琢磨できる

グループでの学習や討論、実習の振り返りに利用できる協働学習室を備え、様々な学習の形に対応しています。

在学院生・修了生 からのメッセージ

多忙な日々の中で、私が教職大学院で学ぶなんて無理だと思っていました。しかし、忙しさに追われながらも、授業を考えたり、子どもたちや同僚と関わったりする中で「これはうまくいった」「これは改善しないと」と考えたり、先輩や後輩に相談して教えてもらったりすることを通して、教師は日々学び続けているものなのだなと気づくようになりました。次第に、自分が得意な事や興味のある事を本で読んだり、研修を受講するようになり、さらに、より専門的に学んでいきたいという思いが強くなり、教職大学院への入学を決意しました。

教職大学院での学びは、これまでの自分のうまくいったことやそうでなかったことの実践や経験と必ず結びついていきます。だから、これからどのようなことを大切にしたらいいのか、これまでの自分や学校の取組でどのような見直しが必要なのかという視点を持つことができ、それを実践していくことで自分だけでなく、子どもたちや学校により良い変化をもたらすと感じています。

教職大学院ではさまざまな校種の方と学ぶので、自分の知識や視野を広げることができ、これまでの自分を振り返りながら、これからの自分を見つけていくことができると思います。それはまさに、新たな教師の学びの姿の1つだといえるのではないでしょうか。

援助ニーズ教育実践コース（M2）
大阪教育大学出身
在学院生
大阪市教育委員会指導部
インクルーシブ教育推進室

西　未来男 さん

私は、今の自分の力量で、本当に教師として自信を持って子どもたちの前に立てるのか、という不安がとても大きかったため、教職大学院への進学を決意しました。

教職大学院では、自分の希望する校種の学校現場で、教師としての実践力を高めることができると同時に、講義でより専門的な学問を学ぶことができます。実際の学校現場の様子を知りながら、学部では学ぶことのできないより高度な理論を修得することができ、将来必ず自分の役に立つと思います。

また、私たちの学びをサポートしてくれるたくさんの教職大学院の先生方や、お互いに切磋琢磨し合える院生との出会いも、かけがえのない経験です。自分には持っていなかった考え方をもつ友だちや、尊敬する先生に出会えるかもしれません。同じ教師を志す院生同士の日々の学び合いは、良い刺激になると思います。

そして現在、私は進学する前よりも確実に自信がつきました。教職大学院での学びは、とても貴重で有意義なものになると思います。進学を考えている人、悩んでいる人がこのメッセージを読んで、少しでもキッカケとなれば幸いです。

教育実践力コース（M2）
和歌山大学出身
在学院生

坂田　良介 さん

「2年前、教職大学院への進学を決意して本当に良かった！」と修了した今、心からそう思います。

可愛い子どもたちの大切な時期を共に過ごし、指導する立場の教育者。その責任は重く、最新の専門的知識と指導技術を身に付ける必要があり、学び続けることのできる環境を自ら整えなければなりません。「今の自分には、どのような学びの場が適しているのか」と模索しながら過ごしていた頃、教員免許更新の為に大阪教育大学で木原俊行教授の講義を受けました。魔法にかかったように時間の事など忘れ、教育の大切さや奥深さを感じながら夢中になって受講していました。その時に「私が学ぶ場所はここだ！」と大阪教育大学連合教職大学院への進学を決意しました。

通学した2年間は本当に学び多く、今後の教員生活を豊かにしてくれること間違いなしです！教職大学院の先生方は、勤務をしながら大学院に通う私達のことをお気遣いくださり、様々な配慮をしながら、丁寧にご指導くださいました。授業を通して、省察したり、院生同士で意見交流したりする日々は本当に刺激的で、知見を深めることのできる環境でした。所属する自治体や校種、職種、経験年数などが異なる仲間との出会いは私の大切な宝物となりました。

文部科学省は「教員に求められる資質能力として、『常に研究と修養に努め、専門性の向上を図ることが求められている。』」と述べています。教職大学院を修了した事は決してゴールではありません。ご教授いただいた事を十分に発揮できるよう、今後も自己研鑽に努めます。学校教育が抱える課題は多様化・複雑化している今だからこそ、教職大学院で自身について、教育についてじっくり考えてみませんか。きっと新たな自分に、教師像に出会えます！

令和５年度修了
スクールリーダーシップコース（修了）
大阪教育大学出身
大阪市教育センター

小池　香苗 さん

私は学部生の時に教育実習・卒論研究を経て、学習における目的意識について興味を抱き、実際に学校教育においてどのような観点のもと、どのような授業を構築することで、学習に対する目的意識が芽生えるのか探究したいと思い、実践を中心とした研究が行える教職大学院への進学をめざしました。

教職大学院は、理論を学び知識を得るだけではなく、学校で教員として授業を行なったり、児童生徒・教員と関わったりして、実践による経験や知見を得ることができます。このような現場での経験は、教員として必要な様々な視点や技能を習得することができ、自身の課題に気づくきっかけにもなります。

つまり、教職大学院にいくことで、教師としてスキルアップしながら、自分自身が追究したい取組を理論と実践を生かして研究することができるということです。

現在、もっと教育について学びたい・追究したいことがあり、その内容が学校現場に関わる実践的なものだという方は、ぜひ教職大学院での学びを考えてみてください。たくさんの先生方や共に高め合う仲間との出会いが待っています。

令和５年度修了
教育実践力コース（修了）
大阪教育大学出身
福岡市立中学校

荒金　花加 さん

私は、「学び続ける教師」でありたいという志から、教職に就いて10年目の節目に、より自分を高めるために教職大学院への入学を決意しました。

教職大学院は実務家の先生方と研究者の先生方との双方の見方から、講義やディスカッションが展開されており、私たち院生にとって、常に子どもたちや先生方を心に浮かべながら学び続けることができる点が最大の魅力だと思います。

そして、新しい時代への転換期に置かれている今だからこそ、子どもたちが世界へはばたく未来を見据えて、最新の動向や広い知見、あらゆる社会的なニーズにも触れることができる授業が豊富であることも、今後の教員人生においての大きな財産となることを確信しております。

また、実践課題研究に向けては、実習校の先生方をはじめ、指導教員や同じゼミの院生の皆さんが大変親身になって相談に乗ってくださっているので助かっています。

このように、多くの先生方や仲間とのつながりの中で、実践や研究を進めることができるのも教職大学院で学ぶ大きな意義だと感じております。

皆さんと共に学び続け、高め合える日を楽しみにしております。

スクールリーダーシップコース（M2）
大阪芸術大学出身
在学院生
堺市立八上小学校

岡田　憲典 さん

「大学院に通っている」と話すと、校長職に就きながらの勉学をねぎらわれたうえで「今さら何を勉強することがあるの？」と、よく尋ねられます。

私は校長2年目にして、早くも自身の実践に行き詰まりました。どうすればよいか、たびたび内省しましたが、持てる知識があまりにも少ないために打開策を見出せません。「このままの私が校長を続けるのは子どもたちや保護者、そして教職員に大変申し訳ないことだ」と思うに至り、教職大学院の門を叩きました。

教職大学院で学ぶ中で、自身の三つの変化・成長を実感しています。一つめは教職員の授業などを「観察する眼」が格段に鋭くなったこと、二つめは何事も鵜呑みにせず「問い」を持つようになったこと、そして三つめは「理論と実践の往還」を通して実践の方向性を見出せるようになったことです。これらは、教職大学院の授業における最先端の知識の教授と省察、そして院生同士の意見交換を通した学びの賜物です。教職大学院の先生方、同期生のみなさんに心から感謝しています。

校長職は頂点ではなく、むしろ教職員以上に貪欲に学び続ける必要があります。世の中の潮流が大きく変化する今、共に教職大学院で学び、新たな時代における教育を豊かに切り拓いていきましょう。

スクールリーダーシップコース（M2）
大阪音楽大学出身
在学院生
大阪府立平野支援学校

川村　典子 さん

私は、より教科の専門性と教師としての力量を高めるために教職大学院への進学を決意しました。

学部生の頃に、「今の私は教師として生徒の期待に応えられるのだろうか」という不安を抱えていたところ、教職大学院の卒業生だった兄が背中を押してくれたことが進学を決めた理由の一つでした。

教職大学院では本気で教師をめざす仲間たちと共に学ぶことができます。「授業がどうすれば面白くなるのか」「生徒の関心を引き出す授業とは」など、様々なことについて帰りの電車の中まで話し合うこともありました。教職大学院の強みである理論と実践の学びを様々な教科の教師をめざす仲間と共に深め合うことができます。こうした環境と仲間に巡り合えたことに、私は進学してよかったと感じています。

もちろん、楽しいことばかりではありません。学校実習では実力不足に嘆いたことも悔しい思いをしたこともあります。それでも、実習校の先生、教職大学院の仲間や先生方に支えられながら生徒と、自分と向き合うことができる時間は貴重であり、学校実習を通して視野も広がり、教育に対する考え方の変化を実感できた成長の1年だったと思っています。

私と同じように漠然とした不安を抱えている方、今の自分よりレベルアップがしたいという方は是非、教職大学院への進学を考えてみてほしいです。

教育実践力コース（M2）
関西大学出身
在学院生

上垣内　大揮 さん

私は、「共生社会」の実現に向けて、障がいのある子どもたちに必要な支援や指導方法を深く学びたいと考え、教職大学院へ進学しました。

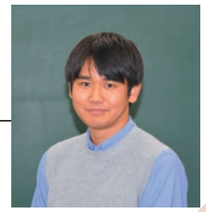
講義では、特別支援教育の理論を始め、学校経営、カリキュラム・マネジメント、教育におけるDXやSTEAM教育、外国にルーツのある子どもの教育など、幅広い現代の学校教育について学ぶことができます。教員や他の院生とコミュニケーションをとりながら講義を受けることで、子ども一人ひとりに合った具体的な支援方法や、採用後の教員としての自分自身の学校組織での役割について実践的に学ぶことができます。

学校実習は、2年間にわたり府内の支援学校で取り組みます。実際に学校組織の一員として、管理職の先生方や学級担任の先生方と連携をし、自身の研究課題に対する実践を行うといった貴重な経験をさせていただいています。1人の院生に対して主指導教員・副指導教員の2名の教員から、実習中で出会う子どもに合った具体的な支援方法や研究の方向性について、理論的かつ実践的な指導や助言を受けることができ、学びの多い実習が経験できます。

教職大学院では、学校教育に対して広い視野で深く学ぶことができます。この学びは、複雑な現代の教育課題に対応できる力となり、一人ひとりの子ども達に寄り添うことができる素敵な教員として学校現場へと繋がると信じています。

特別支援教育コース（M2）
関西福祉科学大学出身
在学院生

伊藤　龍成 さん



教職大学院生の一日

教育実践力コース

	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
授業曜日		1限・2限 8:50〜12:05「教育実践の研究方法」			昼休み	3限 12:55〜14:25「学習指導の実践的展開」		4限 14:40〜16:10		5限 16:25〜17:55「研究室」				
実習日	実習開始 8:00									実習終了16:00				

学修課題

中学校国語科における ICT機器を活用した 文学教材の 協働読解指導

教育実践力コース2回生

西河 陽子さんの場合

学部卒院生（大阪教育大学令和5年3月卒）

※令和5年度作成記事です。

この授業では、教師として授業を行う上で習得すべき多様な授業の実践的手法について学習することができます。また、それらの手法をグループごとに課題として設定し、問題の解決を図る中で、自身の研究課題や授業実践へと繋げます。

専門科目が異なる院生同士で話し合う機会が十分にとられており、専門が違うからこそ生まれる発想の違いや、反対に教科の学びの関連性に気づくことができ、非常に刺激的な時間です。この講義の目玉は、なんといっても50人近い院生を前にして行う模擬授業です。同じ学科・校種のグループで討議しながら授業を考えることができ、教材への理解が深まります。自身の授業実践への見通しを持つことができるだけでなく、他の院生からアドバイスを得たり、今後の学習を通して改善すべき点を発見したりすることができました。

実習開始前の授業ということもあり、授業実践のポイントや実習中に意識すべき事柄を学ぶことができます。専門の先生方から得られた学びは大変貴重で、実習が始まってすぐに実践したい内容ばかりでした。

第 2・3タームでは、週に2回学校実習があります。私は大阪市立大淀中学校で実習を行っています。火曜日・金曜日が基本的な実習日とされていますが、実習校や指導教員と相談の上、各自で設定することができ、私は主に月曜日・金曜日を実習日としていました。実習の合計時間は60時間以内と定められており、期間内や時間数に気を付けながらスケジュールを組む必要があります。

第2タームでは主に授業見学を通して、実習校で行われている授業や生活指導などに着目し、実習生としてではなく組織の一員として行動できるよう努力しました。実習では授業以外にも、先生方の会議の場である職員会議など、教育実習では体験できなかった活動にも参加させていただきました。第3タームでは、文化祭関連の授業を中心に授業の一部を担当させてもらえるようになり、さまざまな考えを持って生徒と向き合うなかで、彼等が見せる反応や成長が、課題研究を進めていく上で貴重な財産になっています。

学校実習のスケジュール【金曜日の例】

8:00〜	実習開始	13:25〜14:15	5限 授業見学・補助
8:50〜 9:40	1限 授業見学・補助	14:25〜15:15	6限 指導教員との打ち合わせ
9:50〜10:40	2限 授業見学・補助	放課後	実習ノートの記入/指導教員との振り返り/教材研究/授業検討/部活動見学
10:50〜11:40	3限 授業見学・補助		
11:50〜12:40	4限 実習ノートの記入		
12:40〜13:05	給食	16:00	実習終了
13:05〜13:25	昼休み		

私は内部進学で入学したため、学部生時代からお世話になっている指導教員の学部生ゼミナールにも参加しています。学部生の研究や指導に関わったり、学部生の協力を受けながら自分の分野についての授業研究を行ったりすることがあります。学部生から刺激を得ながら、自分の研究を深められる貴重な時間です。

ゼミナールが開講されない日は、大学院生が自由に利用できる「協働学習室」を利用することもあります。「協働学習室」では、レポートや教材教具の作成、参考書等の閲覧、講義のグループワーク、自習など、目的に応じて様々な活動ができます。さらに、設置されているノートパソコンや印刷機、文具、教科書を借りることもでき、院生が日々生活していく中で不自由なく学習できる環境が整っています。

また、教職大学院の先生方も院生の指導に訪れる場所でもあるので、院生同士だけでなく、様々な先生方とも交流することができます。教職大学院の先生方は親しみやすい方ばかりで、院生生活や学習面で困っていることがあれば親身になって話を聞いてくださいます。

時間割例

※令和5年度入学生の場合

授業時間	
1限	8:50〜10:20
2限	10:35〜12:05
3限	12:55〜14:25
4限	14:40〜16:10
5限	16:25〜17:55

1回生

前期第1ターム（4月〜6月上旬）

	1限	2限	3限	4限	5限
月	教育実践の研究方法		学習指導の実践的展開		
火	インクルーシブ教育の理論と実践		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践		
水	教育課程編成の今日的課題				
木	教材・題材開発研究［言語表現］				
金		学校経営と学級経営の理論と実践			

前期第2ターム（6月上旬〜8月上旬）

	1限	2限	3限	4限	5限
月	基本学校実習Ⅰ(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				
火					
水					
木			生徒指導と教育相談の実践的展開		
金	基本学校実習Ⅰ(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				

後期第3ターム（10月〜12月上旬）

	1限	2限	3限	4限	5限
月	基本学校実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、後期60時間以上の実施)				
火					
水					
木		教材・題材開発研究［国語／小中］	教材・題材開発研究［文章理解］		
金	基本学校実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、後期60時間以上の実施)				

後期第4ターム（12月上旬〜2月上旬）

	1限	2限	3限	4限	5限
月			教育評価の理論と実践		
火		教材・題材開発研究［道徳b］	教育研究方法演習		
水					
木			カリキュラム・マネジメントの理論と実践		
金	授業研究演習［国語／中高］				

集中講義（冬季期間） 他地域教育実践演習Ⅰ／教材・題材開発研究［コミュニケーション・コンピテンシー］

2回生

前期第1ターム（4月〜6月上旬）

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火					
水				実践課題研究Ⅰ	
木			人権教育の課題と実践		協働的プロジェクト演習
金			学校安全と危機管理		

前期第2ターム（6月上旬〜8月上旬）

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火	発展課題実習Ⅰ(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				
水					
木					
金	発展課題実習Ⅰ(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				

後期第3ターム（10月〜12月上旬）

	1限	2限	3限	4限	5限
月	発展課題実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				
火	発展課題実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				
水					
木					
金	発展課題実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				

後期第4ターム（12月上旬〜2月上旬）

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火					
水	教師力・学校力・スクールコンプライアンス			実践課題研究Ⅱ	
木					
金					

科目区分		当コースにおける修了要件に必要な単位数	本例における取得単位数
研究科共通科目	必修	16	16
	選択必修	2	2
学校実習科目		10	10
コース科目	必修	4	4
	選択必修	6	6
自由選択科目		4	6
課題研究科目		4	4
計		46	48

上記の時間割モデルは令和5年度入学生用カリキュラムによる一例であり、入学後にこのような時間割になることを約束するものではありません。

教職大学院生の一日

スクールリーダーシップコース

	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
授業曜日（勤務日）		登校指導	授業とその準備、事務業務、児童との時間			給食指導、清掃指導	授業とその準備、分掌業務		分掌会議	移動	6限 授業 18:00〜19:30		7限 授業 19:40〜21:10	
実習日	実習開始 8:00								実習終了 17:00					
休　日			課題に取り組む			育児・公園に子どもと遊びに行く								

学修課題

ICTを活用した校内研究の推進

スクールリーダーシップコース2回生

井阪 統行さんの場合

現職教員院生
（泉大津市立旭小学校/
奈良教育大学教育学部卒）

※令和5年度作成記事です。

授業ごとに課題が準備されています。課題は、働きながら大学院に通っている現職の私たちのことを考慮してくれた内容となっています。授業によってはグループでの教材づくりなどの課題もあったり、夏休みや冬休みの長期休暇の時にはレポート課題もあります。

私はおもに土曜の午前中を課題に取り組む時間としています。課題が終わった後には、我が子と公園へ遊びに行きます。育児をしながら課題に取り組む時間を確保していくのは大変ですが、休日の時間を有効的に活用しながら教職大学院の学びと育児の両立に励んでいます。

課題を取り組む際には、大学の図書館等を活用することもありました。図書館も教育関係の本が充実しているので、レポート作成のための勉強も苦労しません。また、グループでの取組課題については、zoomなどを活用して行うこともあります。オンラインでの打ち合わせは移動時間を気にすることがないので、家事の合間に行うことができます。院生同士で協力し取り組む経験もまた、新鮮で学びが多くあります。

日中は、小学校の教員として子どもたちと関わっています。校内学力向上部会の分掌長や情報教育主任も務め、校内研究やICT活用を推進しています。

理科の授業を担当しており、休み時間には理科室を開放して探究活動を進める機会を設けながら、子どもたちが理科に興味・関心を持って学びを深められるようにしています。

大学院に通うようになってからは、これまで何気なく行っていた業務の中に、大学院で学んだ理論が結びつくようになりました。その結果、子どもに提供できる教育の質を上げることに繋がっていることを実感しています。

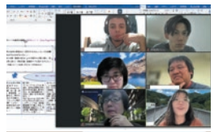
例えば、大学院で学ぶ「学習指導の実践的展開」では「ガニェの9教授事象」や「動機づけに関わる自己決定理論」など授業設計に関する様々な理論をくわしく学ぶことができます。その上で、学んだ理論を活用しながら、新しい授業を考案し挑戦するための時間が設けられています。これまでの自身の授業を見直す良い機会となりつつも、明日の実践に活用できる内容を得られるので、大学院で学ぶ理論と学校現場での実践を常に意識し試すことができます。

そして、スクールリーダーシップコースではスクールリーダーとして必要な資質・能力を育むための授業が多く準備されています。実践と理論を交えながら、スクールリーダーとしての資質向上を図ることができます。例えば、「スクールリーダーシップの理論と実践」では様々なリーダーシップの在り方について理論を学びながら、自らの実践を省察して今後自身がめざすリーダーシップのモデルについて構想できました。また、「学校改善のアクションリサーチ」では、学校の組織課題を解決するためのアクションリサーチの方法論やその遂行に必要となるデータの収集・分析・発信の方法について学び、自らがどのように組織課題に対して解決を図っていくのか深く考えることができました。授業を受けることで課題に対し解決の糸口が見え、その実践を勤務校で行っています。

授業は、「対面授業」と「オンライン授業」のどちらも行われます。対面授業では学部生だった頃の授業と比べて院生同士でディスカッションする機会が非常に多く、意見を交流する中で自分の考えをより深めたり成果物を推敲することができます。また、オンライン授業は未経験であったため非常に新鮮で、自分が授業を行う際の学びになります。

どの授業も必ず理論に沿って展開されていきます。授業を担当される先生方は日頃から学校現場に足を運ばれており、現場のことをよく理解されています。そのため、臨場感ある実践を例にしながら理論が説明されるので、現職教員の私たちにとっても納得できるものとなっています。日常的に発生する現場での課題にも、この理論を当てはめて考察する時間があるので、明日にでも現場で活用できる授業を受けています。

また、研究の方法や手順についての授業もしっかりあります。例えば、「学校改善のためのアクションリサーチ」ではスクールリーダーシップコースの先生方から、質的・量的研究について学びます。繊細な分析方法に苦労する時間でしたが、大学院だからこそ学べる「研究の方法」を得ることができ、根拠を持った教育研究を進める基礎を身に付けることができます。



そして休み時間の院生同士の会話は何より楽しい時間となっています。教育に対して同じような向上心を持った人たちが集まっているので、前向きな会話に心が弾みます。様々な校種や教育委員会の院生が集まっているので、普段は一緒に働くことのない人たちと夜の学校を過ごす時間はとても有意義なものとなっています。

時間割例

※令和5年度入学生の場合

授業時間	
6限	18:00〜19:30
7限	19:40〜21:10

1回生

前期

曜日	6限	7限
月		教育課程編成の今日的課題
火	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	生徒指導と教育相談の実践
水		学校経営と学級経営の理論と実践
木		スクールリーダーシップの理論と実践
金		指導教員による指導（個別RM）

後期

曜日	6限	7限
月	グローバル時代の教師	学習指導の実践的展開
火	学校におけるコーディネーション	教育研究方法演習
水	学校に対するコンサルテーション	カリキュラム・マネジメントの理論と実践
木		学校改善のためのアクションリサーチ
金		指導教員による指導（個別RM）

集中講義

授業におけるICT活用の理論と実際

2回生

前期第1ターム（4月〜6月上旬）

曜日	6限	7限
月		
火		実践課題研究Ⅰ
水		
木	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	
金		

前期第2ターム（6月上旬〜8月上旬）

曜日	6限	7限
月		実践課題研究Ⅰ
火	学校安全と危機管理	
水		
木		
金	学校における人材育成の理論と実践	

後期第3ターム（10月〜12月上旬）

曜日	6限	7限
月		
火		
水	メディア・情報教育の企画・運営	
木	校内研修の持続的展開	
金		実践課題研究Ⅱ

後期第4ターム（12月上旬〜2月上旬）

曜日	6限	7限
月		
火	教師力・学校力・スクールコンプライアンス	
水		
木		
金		実践課題研究Ⅱ

時間割外講義

インクルーシブ教育の理論と実践

科目区分		修了要件に必要な単位数	本例における取得単位数
研究科共通科目	必修	16	16
	選択必修	4	4
学校実習科目		10	10
コース科目	必修	6	6
	選択必修		8
自由選択科目		6	6
課題研究科目		4	4
計		46	54

※修了要件に必要な単位数は選択したコースにより、若干の違いがあります。
※各科目の単位は、発展課題実習Ⅰ・Ⅱ（各3単位）を除き、1科目2単位。

上記の時間割モデルは令和5年度入学生用カリキュラムによる一例であり、入学後にこのような時間割になることを約束するものではありません。

授業科目一覧（予定）

教員養成フラッグシップ大学指定による単位の修得方法に関する特例を用いた研究科共通科目「フラッグシップ大学特例領域科目」を設置し、幅広い学びのニーズに応えます。

研究科共通科目

※授業科目名は、すべて仮称であり変更になる可能性があります。

科目区分		授業科目の名称
共通5領域科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	カリキュラムの編成原理とマネジメント
	教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践
	学校教育と教員の在り方に関する領域	学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造

科目区分		授業科目の名称
フラッグシップ大学特例領域科目	教育DX・STEAM実践に関する領域	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践
	教育グローバル人材の育成に関する領域	グローバルスタディーズの展開
	多職種協働による組織マネジメントに関する領域	多職種協働による組織マネジメント
	ダイバーシティの理解に関する領域	社会的包摂に関する実践的探究
		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践
		外国にルーツのある子どもの教育 Ⅰ·Ⅱ·Ⅲ
		インクルーシブ教育の理論と実践
		インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援
		通常学級におけるインクルーシブ教育の実践
現代的教育科目		学校安全と危機管理
		人権教育の課題と実践
		臨床的研究法入門 Ⅰ·Ⅱ

学校実習科目

授業科目の名称			
基本学校実習 Ⅰ	基本学校実習 Ⅲ（特別支援）	発展課題実習 Ⅰ	発展課題実習 Ⅲ（特別支援）
基本学校実習 Ⅱ	基本学校実習 Ⅳ（特別支援）	発展課題実習 Ⅱ	発展課題実習 Ⅳ（特別支援）

スクールリーダーシップコース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	スクールリーダーシップの理論と実践	学校改善のためのアクションリサーチ	学校における人材育成の理論と実践
選択科目	スクールリーダーのマネジメント	校内研修の持続的発展	
	学校組織開発	学校に対するコンサルテーション	
	チーム学校の実践的展開	授業におけるICT活用の理論と実際	
	学校におけるコーディネーション	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	
	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	新しい時代の教育政策と学校経営 Ⅰ·Ⅱ	

援助ニーズ教育実践コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	援助の理論と協働的援助	保護者との協働的援助	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ
選択科目	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ	就学前の子どもの援助のための政策・システム	
	予防的な関わりと協働的援助	就学前の援助ニーズへの多様な支援	
	学校危機における援助ニーズ	エビデンスベースの学校改革	
	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	教員のための応急処置の基礎と実践	
	メンタルヘルス課題の理解	学校経営における学校保健及び保健室のマネジメント	
	共生社会をめざした協働的援助		

教育実践力コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	教育実践の研究方法	教育評価の理論と実践	探究学習の開発と実践
選択科目	**授業研究** [小学校国語]/[小学校英語]/[小学校音楽]/[中高国語]/[中高英語]/[中高理科]/[中高音楽] /[数学]/[社会科]/[家庭科] [技術]/[体育・保健体育]/[道徳]/[書写]/[美術]/[身体と表現　カリキュラムデザイン]		
	教材・題材開発研究 [小学校理科 生命・地球]/[小学校理科　エネルギー・粒子]/[中高理科　物理・化学]/[中高理科　生物・地学] [英語論理・表現]/[国語科]/[算数・数学]/[代数・幾何]/[解析・確率]/[地理]/[歴史]/[政治・経済] /[倫理]/[哲学]/[社会学] [家庭科]/[道徳]/[体育・保健体育 Ⅰ·Ⅱ]/[音楽学]/[書鑑賞]/[声楽]/[技術・情報]/[ものづくり]/[技術　エネルギー変換(電気)] [技術　材料と加工]/[ピアノ演奏法・伴奏法]/[芸術文化理解]/[創造と表現]/[消費者教育]/[特別活動]/[教育と想像力] [コミュニケーション・コンピテンシー]		
	高度授業研究 [小学校英語]/[小学校国語]/[小学校音楽]/[中高国語]/[中高理科]/[中高音楽]/[英語科]/[数学]/[社会科]/[家庭科] [体育・保健体育]/[道徳]/[総合的な学習の時間]/[身体と表現　カリキュラムデザイン]/[芸術書道]/[美術]		
	高度教科内容研究 [中高理科　化学]/[中高理科　物理]/[中高理科　生物]/[中高理科　地学]/[国語科　言語表現]/[国語科　言語文化] [英語コミュニケーション]/[算数・数学]/[代数・幾何]/[解析・確率]/[公民]/[道徳]/[家庭科]/[ものづくり]/[技術]/[消費者教育] [体育・保健体育]/[他地域教育実践]/[ピアノ演奏法・伴奏法]/[芸術文化理解]/[創造と表現]		

特別支援教育コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援	特別支援教育の教育課程と授業論	特別なニーズのある子どもの臨床
選択科目	インクルーシブ教育の理論と実際	特別支援教育の現代的課題	
	特別支援教育コーディネーター論	発達支援教育実践論	
	特別なニーズのある子どもの生理と病理	教育相談支援の理論と実際	
	発達障がいのある子どもの理解と支援		

高度教職プログラム

大学院連合教職実践研究科に所属する大学院生が、さまざまな学校現場のニーズ及び教育課題に対応し、課題意識を持ちながら主体的にプログラムを選択し履修することで、学校教員としての高度な資質及び力量を強化することを目的とします。

プログラム名称	構成科目
インクルーシブ教育プログラム	・インクルーシブ教育の理論と実践 ・インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援 ・通常学級におけるインクルーシブ教育の実践
外国にルーツのある子どもの支援プログラム	・外国にルーツのある子どもの教育 Ⅰ ・外国にルーツのある子どもの教育 Ⅱ ・外国にルーツのある子どもの教育 Ⅲ
生徒指導プログラム	・いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ ・学校危機における援助ニーズ ・予防的な関わりと協働的援助
障がい・健康課題のある子どもへの協働的援助プログラム	・障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ ・メンタルヘルス課題の理解 ・共生社会をめざした協働的援助
特別支援教育プログラム	・インクルーシブ教育の理論と実際 ・特別なニーズのある子どもの生理と病理 ・発達支援教育実践論
学校マネジメントプログラム	・スクールリーダーのマネジメント ・チーム学校の実践的展開 ・学校組織開発

課題研究科目

授業科目の名称
実践課題研究 Ⅰ
実践課題研究 Ⅱ

コースカリキュラムについての詳細はコチラ

就職支援

キャリア支援センターによる教員採用試験の充実したサポート体制を整えています。

Support 1　筆記試験対策講座

筆記試験対策講座を講義形式で実施

Support 2　面接試験対策講座

面接試験に必要なノウハウ・テクニックを身に付けることが可能

Support 3　教育委員会による採用説明会

各教育委員会関係者が大学で採用説明会を実施
試験の詳細や変更点を聞くことが可能

Support 4　私立学校教員採用説明会

私立学校人事担当者が本学で説明会を実施
各学校の採用予定や特色を聞くことが可能

Support 5　実技・面接対策講座

水泳・音楽・器械運動など実技試験、集団討論・面接、模擬授業・場面指導の対策講座を実施

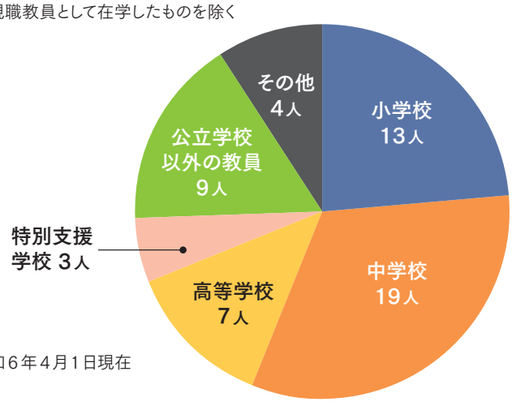
Support 6　専門アドバイザーによる相談

専門アドバイザーによる教員採用試験相談を実施

進路状況

令和５年度修了者の就職状況（55人）

※現職教員として在学したものを除く



令和６年４月１日現在

教員採用試験の採用候補者名簿掲載期間の延長について

教員採用試験を受験し最終選考まで合格した人に対し、教職大学院に進（在）学し専門職学位課程修了後の採用を希望する場合において、採用候補者名簿掲載期間を最長2年間延長できる制度を設けている自治体が複数あります。

※延長制度の有無や詳細については、受験を希望する自治体の採用試験実施要項を確認してください。

Pick Up

◆科目等履修生制度

正規の院生の他に、連合教職大学院の正規の授業を聴講して単位を修得する制度です。1年間に8単位まで履修することができます。教員免許状の取得に必要な科目の履修や特定のテーマについて専門的に学びたい場合にご利用ください。また、本制度により修得した単位は、正規院生として入学した際、既修得単位として認められます。

◆履修証明プログラム

「履修証明プログラム」とは、社会人等の学生以外の者を対象とした教育プログラムで、修了者には学校教育法の規定に基づく履修証明書が交付されます。

連合教職大学院では、学校現場のニーズや教育課題に対応することを目的として、当研究科が開設する授業科目により履修証明プログラムを編成・開設しております。

履修証明プログラムの履修生として入学が許可されると、科目等履修生としての身分を有することになり、修得した単位は科目等履修生として修得したものとして取扱います。

◆授業公開

連合教職大学院では、年間を通じて授業を公開しています。連合教職大学院での学びをぜひ一度体験してしてください。

詳細は連合教職大学院ウェブページにてご確認ください。

学費・奨学金

■ 入学料・授業料

令和６年度入学	入学料	授業料（年額）
大学院	282,000円	535,800円
大学院（長期履修学生制度の適用者）	282,000円	357,200円

上記金額は、令和６年度入学者の金額であり、令和７年度入学者については、変更される場合があります。

長期履修学生制度

標準修業年限（2年）で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができます。

長期履修学生としての申請に基づき審査を行い、許可された場合修業年限を3年とします。修学状況等の変動により、標準修業年限への短縮や、入学後（在学中）の長期履修の申請も可能ですが、この場合、1年次の所定期日までに申請を行い、翌年度からの適用となります。なお、本制度が適用された方は、留学など長期にわたって本学大学院を離れた場所での修学ができない場合があります。

〈申請資格〉

申請資格を有する方は、次のいずれかに該当する方です。

① 職業を有する方
② 育児、介護等の事情を有する方
③ その他研究科長が認めた方

〈授業料（年額）〉

大学が定めた授業料年額 × 標準修業年限（2年） ÷ 長期履修期間（3年）

■ 専門実践教育訓練給付金

連合教職大学院では、スクールリーダーシップコース、援助ニーズ教育実践コース及び教育実践力コースについて、厚生労働大臣より教育訓練給付金制度の専門実践教育訓練講座に指定されています。これにより、支給対象者は所定の手続きを行うことで、修了後、専門実践教育訓練給付金（入学金+授業料の半額程度）の支給を受けることができます。

※本制度は、国立・私立学校の現職教員等が対象となる可能性があります。
※ただし、長期履修制度を利用する場合、原則、専門実践教育訓練給付金の申請はできません。
※制度の詳細については、厚生労働省のウェブサイトをご確認ください。

授業料等免除制度　　入試成績優秀者への授業料免除制度を新設！

一般選考	経済的理由により入学料・授業料の納付が困難であり、かつ、成績優秀と認められる方を対象に選考のうえ、入学料・授業料の全額または半額が免除あるいは徴収が猶予されます。
入試成績優秀者に対する特別授業料免除	本学教職大学院に入学する方のうち、本学入学試験の成績が優秀であると認められる方を対象に選考のうえ、入学年度の前期授業料の全額が免除されます。
大学院における特別授業料免除	本学大学院に在学中で、学業成績等が優秀であると認められる方を対象に選考のうえ、授業料の半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

奨学金制度　　新たに授業料後払い制度が創設されました！

学業成績が優秀で、経済的理由により学資の支弁が困難の方には《日本学生支援機構奨学金》または《一般奨学金》の制度があります。一般奨学金には、大きく分けて地方公共団体の奨学金と民間育英団体の奨学金とがあります。

（参考）令和６年度入学者 日本学生支援機構奨学金の貸与月額例

奨学金の種類	貸与月額
第一種奨学金（無利子）	50,000円・88,000円のいずれかより選択
授業料後払い制度（無利子・在学中は授業料を納付せず、終了後の所得に応じて後払いする制度）	・授業料相当額（年間535,800円が上限）※日本学生支援機構から大学に直接支払われます。 ・生活費奨学金（20,000円・40,000円のいずれかより選択） ※生活費奨学金のみの貸与を受けることはできません。
第二種奨学金（有利子）	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円のいずれかより選択

上記金額は、令和6年度入学者の金額であり、令和7年度入学者については、変更される可能性があります。
第一種奨学金（無利子）及び授業料後払い制度については、「特に優れた業績による返還免除制度」があります。
また、入学予定者を対象とした「特に優れた業績による返還免除内定制度」があります。

入試情報

■ 令和７年度入試日程

	入 試 日	合 格 発 表
1次募集	令和６年　9月7日（土）	令和６年　9月13日（金）
2次募集	令和６年12月８日（日）	令和６年12月13日（金）
3次募集	令和７年　2月9日（日）	令和７年　2月14日（金）

※上記入学試験で定員に満たない場合は４次募集［令和７年３月１日（土）］を実施する場合があります。

■ 選抜方法

【推薦選抜】

入学者推薦選抜は、課題レポート、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。
課題レポートの内容については、大学ウェブページで公表しています。

【一般選抜】

入学者一般選抜は、小論文、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。

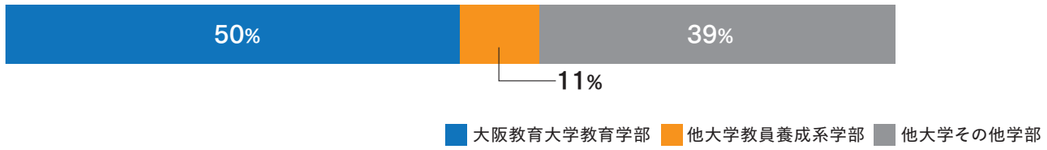
■ 入試説明会

オンラインで全体説明やコース別説明を行います。詳細は大学ウェブページに掲載します。
お気軽に参加ください。

令和６年６月30日（日）、令和６年10月６日（日）、令和６年12月１日（日）

■ 学部卒院生の出身大学・学部（令和４年度～６年度入学者）

入学者の出身大学・学部は、教員養成系大学・学部に限らず、理工学部や文学部、外国語学部など多様です。



三つのポリシー

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

大学院連合教職実践研究科（連合教職大学院）は、教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させ、もって学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての人材の育成を目標としています。

この目標に基づき、所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有すると認められた者に教職修士（専門職）の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

大学院連合教職実践研究科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成することを目的としています。そのため、教育職員免許法を踏まえながら、教員養成フラッグシップ大学として、指定大学が加える科目を設定した上で、次のように教育課程を体系的に編成し、実施するものとします。

①高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を体系的に修得する研究科共通科目
②変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための活動を展開する学校実習科目
③（スクールリーダーシップコース）自らのキャリアや所属学校園等の組織課題を踏まえ、専門的かつ多元的に学びを進めることを目的としたコース科目
（援助ニーズ教育実践コース）学校現場における協働的援助の実践力を育成することを目的としたコース科目
（教育実践力コース）教育現場の諸課題に広い視野をもって即応できる能力を育成するコース必修科目、1）教科教育系科目群として、a.教科指導力の向上を目指し、児童生徒の実態を踏まえて適切に授業を計画し、実施、評価、改善ができる能力を育成する科目（授業研究科目）、b.教科指導力の充実を目指し、最新の教育改革動向を踏まえて他の教職員の模範となるような授業を計画し、実施、評価、改善ができる能力を育成する科目（高度授業研究科目）、2）教科専門系科目群として、c.教科領域の基礎的・発展的な教材・題材を開発し、実践できる能力を育成する科目（教材・題材開発研究科目）、d.教科領域の高度で専門的な知識の深化を図り、先端的な教材・題材を構想・開発し、実践等を通じて改善できる能力を育成する科目（高度教科内容研究科目）からなるコース選択科目
（特別支援教育コース）特別支援教育の理論と実際について、教育学、心理学、臨床学などの専門分野の観点から多角的に学ぶとともに、障がいの多様化・重度化・重複化、通常の学級における発達障がい児への対応、特別支援教育コーディネーターの機能向上など、特別支援教育における現代的課題に即応できる実践力を培うことを目的とするコース科目
④自ら学校実践の現場における課題を設定し、研究科共通科目、コース科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目

①及び③の実施においては、主体的・対話的で深い学びを提供します。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れます。さらに、必要に応じて、教職経験を活かした活動を導入します。また、成績評価においては、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視します。
②及び④に関しては、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

1. 求める学生像
卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を育成するために編成された教育課程を履修する学生として次に掲げる人材を広く求めます。
・学校や地域が抱える教育課題の解決において指導的・中核的な役割を果たすために求められる高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員及び教育委員会関係者
・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人

2. 入学者選抜の基本方針
大学院連合教職実践研究科が求める学生を受け入れるために、次の大学院入学者選抜を実施します。
［推薦選抜］
大学院入学者推薦選抜では、「課題レポート」・「口述試験」・「学修計画書」を課します。
・「課題レポート」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。
・「口述試験」において
学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法・大学院での学修計画を特に評価します。
現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。
・「学修計画書」において
学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。
現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。

［一般選抜］
大学院入学者一般選抜では、「小論文」・「口述試験」・「学修計画書」を課します。
・「小論文」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。
・「口述試験」において
学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法・大学院での学修計画を特に評価します。
現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。
・「学修計画書」において
学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。
現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。

3. 入学前に学習しておくことが期待される内容
（学部卒学生等）　・大学卒業レベルと同等の基礎学力
・教職への基本的な知識・技能
（現職教員等）　・教育全体や所属する組織の課題を理解し、課題解決をする力
・組織の一員として協働して取り組む力
・子ども一人ひとりを理解し、授業づくり、集団づくりを指導する力

Access

※このアクセスマップはすべての路線が記載されているものではありません。

柏原キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

- 新大阪 —4分（大阪方面）— JR大阪 —16分（JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面）
- 三ノ宮 —24分（JR神戸線新快速 大阪方面）— JR大阪 —16分（JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面）
- 神戸三宮 —48分（阪神本線快速急行）
- JR京都 —28分（JR京都線新快速 大阪・神戸方面）— JR大阪 —16分（JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面）
- 丹波橋 —33分（京阪本線特急 淀屋橋方面）— 京橋 —7分（JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面）
- 大阪難波 —5分（近鉄奈良線 大和西大寺方面）
- 岸和田 —28分（南海線急行 なんば方面）— 新今宮 —8分（JR大阪環状線内回り 天王寺・鶴橋方面）
- 関西空港(鉄道) —33分（JR特急はるか）— 天王寺 —8分（JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面）
- 和歌山 —75分（JR直通快速 天王寺行き）— 天王寺 —8分（JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面）

→ 鶴橋 —17分（近鉄大阪線急行）— 河内国分 —1分（近鉄大阪線準急）→ 大阪教育大前 —約15分（徒歩（約1km）大阪教育大前駅 名物のエスカレーターがあります。）→ 柏原キャンパス

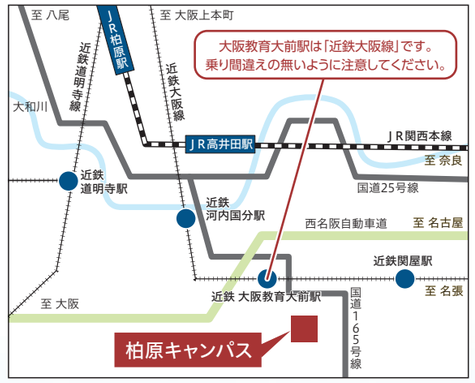
- JR奈良 —16分（JR関西本線 大阪方面）— 王寺 —12分（JR関西本線 難波方面）— 柏原 —約7分（徒歩（550m））— 堅下 —7分（近鉄大阪線区間準急 名張方面）→ 大阪教育大前 —約5分（近鉄バス）→ 柏原キャンパス
- 大和西大寺 —22分（近鉄橿原線急行 橿原神宮前方面）
- 近鉄名古屋 —116分（近鉄名古屋線特急 大阪難波方面）
- 津 —14分（近鉄名古屋線 伊勢中川方面）— 伊勢中川 —73分（近鉄大阪線快速急行 大阪上本町方面）

→ 近鉄大和八木 —7分（近鉄大阪線急行 大阪上本町方面）— 五位堂 —10分（近鉄大阪線準急 大阪上本町方面）→ 大阪教育大前 → 柏原キャンパス

意外と近いかも！
キャンパスまでのルートを最寄りの駅から調べてください。

大阪上本町駅から
大阪教育大前駅まで近鉄電車で**23**分

JR大阪環状線鶴橋駅から
大阪教育大前駅までなら**19**分



天王寺キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

- 大阪教育大前 —1分（近鉄大阪線準急）— 河内国分 —17分（近鉄大阪線急行）— 鶴橋 —4分（JR大阪環状線外回り 天王寺・弁天町方面）
- 大阪 —20分（JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面）
- 京橋 —12分（JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面）

→ 寺田町 —約5分（徒歩（約350m））→ 天王寺キャンパス

- JR奈良 —35分（JR大和路快速 大阪方面）
- 神戸三宮 —31分（阪神本線快速急行 近鉄奈良方面）— 西九条 —16分（JR大阪環状線内回り 弁天町・天王寺方面）

→ 天王寺 —約10分（徒歩（約600m））→ 天王寺キャンパス

大阪市内中心地　天王寺駅から約600m（寺田町駅から350m）

国立大学法人
大阪教育大学

https://osaka-kyoiku.ac.jp/

学務部入試課
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
TEL 072-978-3323